

2021年度 社会福祉法人松溪会 事業報告書

理事長 津幡佳伸

社会福祉法人松溪会は40年の歴史を踏まえ、2010年より法人運営を健全に導かれた武居敏前理事長の志を引き継いで評議員会、理事会は新体制によって運営されることとなった。保育事業における経営環境の変化に対応しながらも、子どもの成長に必要な支援、保護者にとって必要な支援、職員の成長と共に誠意を以て行うべく、法人経営を行う姿勢とした。

保育事業は待機児童対策として2013～2017年度の「待機児童解消加速化プラン」、2018～2020年度の「子育て安心プラン」に続いて2021～2024年度を目標に「新子育て安心プラン」として14万人の待機児童対策の数値目標を掲げ、累計で96万人分の保育の受け皿が広がった。しかし、2021年の出生数は84万人、待機児童数は2020年の1万2439人から2021年は5600人に減少した。湖西市では今後、幼稚園、保育施設利用者は年間100人毎、減少していく予測を立てており、人口減少に悩む地方都市においては、急増する保育施設に対して児童の定員確保が難しくなることが予測されている。現状において、おかさきこども園においては乳児、低年齢児の定員を満たすことか難しくなっている。浜松市にある市野与進こども園においては待機児童が最も多い地区に立地していることから、児童の受入れに苦慮する状況となっている。

このような経営環境に注視しながらも、児童一人一人に視点を置いた丁寧な保育を行う事が私たちの役割であり、使命となる。法人運営においては保育職員にとって安心して働ける環境を整える取り組みを行った。まずは職員確保のため、人材紹介会社の活用と学校訪問、ホームページ検索をQRコードを連動させ、募集掲示に活用した。保育利用を目的に施設パンフレットの作成を通して両園の共通する思いと独自の取り組みについて考えを深める機会とした。また、聖隷福祉事業団との連携を基に施設設備点検や修繕、契約の見直しや購入物品の比較を行った。会計処理においては田中会計事務所との契約を見直し、法人と両園が同システムを各々動作できるよう会計システムを変更した。保育現場においては主要職員による他園の現場視察を行い、保育環境の整備について両園各々が取り組んだ。発達障害児への対応について遅れが生じている湖西市との対話を開始し、聖隷福祉事業団職員によるおかさきこども園への訪問指導も定期的に行われることとなった。また、保育の相互チェックを目的に他園の園長による訪問アドバイスを受ける取り組みを行った。これらの意見を受けて保育現場の課題を整理し、施設運営における意思決定の即時性を高めるべく、両園各々で役職者等による運営会議を開始した。法人運営については管理会議について聖隷福祉事業団職員のオブザーバー出席を行い、客観的な法人運営が可能となるよう意識化を図った。特にコロナ感染による濃厚接触者に対する抗原検査の実施、PCR検査の実施については、職域接種の協力も併せて必要な支援を得ることが出来た。

法人経営、施設運営について、まだまだ取り組むべき課題は山積しており、厳しさを増す保育経営環境の中にあっても、子どものあらゆる権利を守り、地域貢献と保護者支援に対して誠意を尽くす社会福祉法人松溪会としたい。